

リスクを様々な専門技術で定量化し、社会のリスク低減に貢献し、
高い第三者性、専門性、先進のリスク評価テクノロジーで皆様のリスクマネジメントに貢献します

OYO RMS

応用アル・エム・エス 株式会社



災害リスクWEBアプリ

RiskMove[®] 地震被害簡易評価

簡単入力で、地震リスクを把握！

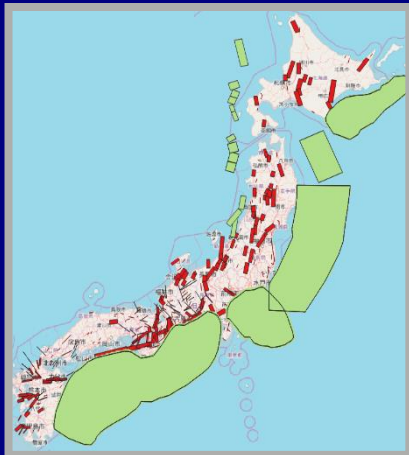
郵便番号と建物情報から影響が大きい5地震の被害額を算出。被害額は公的機関の公開情報に基づいて算出。地震リスクのスクリーニング、保険の検討、審査などにご利用できます。



- システムの特徴
 - ◆ Webアプリケーション（ブラウザからログイン）
 - ◆ 簡単な入力画面、A4サイズ1枚のレポートを出力
 - ◆ ライセンス契約
- 震源・震度データ
 - ◆ 地震調査研究推進本部 (J-SHIS) のプレート境界地震、主要・その他の活断層による地震のデータを使用
- 建物の損失予測
 - ◆ 中央防災会議や自治体の被害想定で使用された方法を使用
- 次のステップ
 - ◆ 複数物件ポートフォリオ分析や施設の用途設定など、より精緻なリスク評価は、RMS社のRiskLink[®]を使用

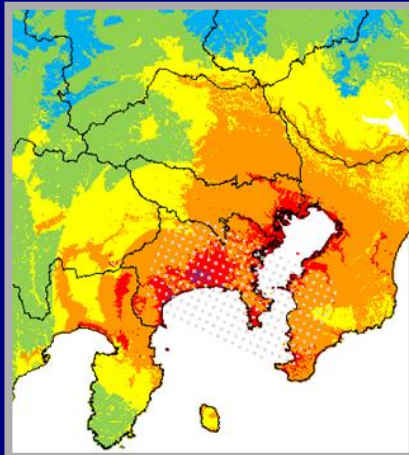
モデルフロー

震源



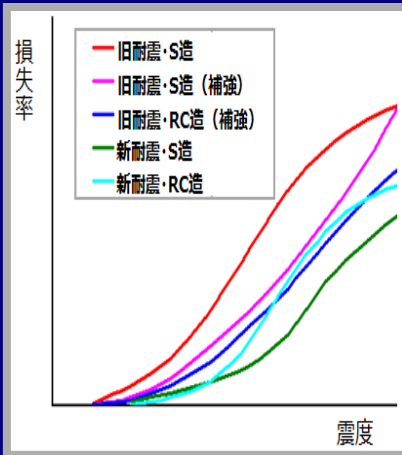
【地震モデル】
全国の様々なタイプの地震

震度推定



【震度分布】
震度メッシュデータを郵便番号単位に集約

損失予測



【建物の脆弱性】
構造・用途，階数毎に分類

分析結果例

震源名	マグニチュード	震度	損失額 (百万円)	損失率 (%)
相模トラフ(元禄型関東地震)	8.2	6強	186	18.6
相模トラフ(大正型関東地震)	8.0	6強	156	15.7
三浦半島断層群主部衣笠・北武断層帯	7.2	6強	131	13.1
三浦半島断層群主部武山断層帯	6.9	6弱	60	6.1
南海トラフ(東海・東南海・南海・日向灘)④	9.1	6弱	40	4.0

- 対象とする施設に対して大きな被害を与える想定地震を抽出し、想定地震毎に予想損失額を算出

RiskMove® シリーズ



水災被害簡易評価

- 〇〇年に一度の降雨による内水氾濫の浸水高、被害額
- 公共機関公表洪水ハザードマップ情報から被害額を算出



風災被害簡易評価

- 〇〇年に一度の暴風による最大瞬間風速、被害額
- 被害額は公共機関の公開情報に基づいて算出

OYORMS

応用アル・エム・エス 株式会社

応用アル・エム・エス株式会社
〒107-0052
東京都港区赤坂4-9-9 赤坂MKビル4F
TEL:03-6434-9801
support@oyorms.co.jp
<https://www.oyorms.co.jp/>

